

# プロジェクトで発生するリスクの MBTI を用いた事前予測

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1442085 中村 真悟

## 1. 序論

MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) という自己理解メソッドがある。MBTI とはカール・グスタフ・ユングの心理学的類型論の指標 (内向: I-外向: E, 感覚: S-直感: N, 思考: T-感情: F) に判断的態度: J-知覚的態度: P の指標を加えて, 4 指標 16 タイプとして性格を分類する。主に相談場面や教育現場, 企業の組織編制, 人事政策などに利用されている [1]。

## 2. 目的

本研究の目的は, メンバの MBTI のタイプの相互作用がプロジェクトのリスクにどう影響を及ぼしているのかを調べ, メンバ間で発生しやすいリスクを予測することである。

## 3. 手法

以下の手法で研究する。

1. グループワークで課題に取り組んでもらう。
2. グループワーク後に, 性格検査と発生したリスクについてのアンケートを行う。
3. 集めた回答結果をトレーニング用とテスト用にデータを分ける。
4. トレーニング用データをアソシエーション分析し, 確信度が一定の値 (閾値) を越えたルールを採用する。
5. テストデータを使い, ルールの精度と再現率 (後述) を求める。
6. 精度と再現率の調和平均 (F 値) を求め, 値が最も高くなるルール抽出の閾値を求める。

採用されたルールをテストデータで検証する。テストデータ中に存在する MBTI タイプの組み合わせにルールが適合したら, そのルールに対応するリスクが発生すると予測する。発生が予測されたリスクのうち, 実際に発生したものの割合を精度, 実際に発生したリスクのうち, 予測できたものの割合を再現率とする。

アソシエーション分析し, 抽出したルールには確信度と発生率がある。閾値には, 確信度を用いる。

## 4. 結果

講義のグループワークで性格検査とアンケートを実施した。集めた 39 グループのデータを, トレーニングデータとテストデータに分け, トレーニングデータからルールを抽出した。抽出したルールの例としては, ESFJ と ESFP がいるとリスク 20 が発生する。発生率は 0.2, 確信度は 1 である。

抽出したルールから, 精度と再現率, それらの F 値を求めた。精度は 0.25, 再現率は 0.864, それらの F 値は 0.388 だった。確信度 0.8 を越えたルールだけにすると値が最も高くなったため, 閾値は 0.8 となる。

## 5. 考察

今回の結果から, ある MBTI のタイプが揃うと発生するリスクがあると考えられる。より多くのデータを集めれば, メンバの MBTI のタイプがわかった時点でリスクを予測することが出来ると考える。

## 6. 結論

本研究では, グループワークからメンバの MBTI, 発生したリスクをアンケートを用いて集め, どのようなリスクがあるか調べた。その結果, 特定の MBTI のタイプが揃うとリスクが発生するルールがあることがわかった。

今後もデータを集めていけば, ルールが増えるだろう, そして, リスクが最も少ないグループ分けの方法の提案につながることを期待される。

## 参考文献

- [1] 中澤清, 田淵純一郎. 24 MBTI に関する研究 (1) : MBTI の概略について. 日本性格心理学会大会発表論文集, No. 6, p. 52, Dec 1997.
- [2] Otto Kroeger and Janet M. Thuesen. 性格学入門 運命のカギをにぎる 16 のタイプ別性格判断. 飛鳥新社, Aug 1994.